

# 産総研をとりまく自然

## 自然環境を保護した敷地利用

産総研が新たに建物などを建築する際には以下のような基準により自然環境や緑地の確保などに配慮して整備しています。

産総研（旧：工業技術院）が建設された当時は、国土交通省（旧：建設省）が定めた建設計画標準※に基づいて建物配置、敷地利用などの計画が行われました。

2001年4月に独立行政法人となった現在でも基本的な運用については建設計画標準を参考としており、隣接する住宅地など周辺との環境の調和や敷地内の緑地保存、試験研究機関相互の境界には原則囲いは設けないこと、また、自然環境の保護の観点からできる限り自然の地形や緑地を生かすことなどとして運用しています。

具体的には、建築化区域、緑化区域などの敷地面積に対する割合の基準を設けたり、詳細な部分では幹線道路から幅30メートル以上、その他の敷地境界からは10メートル以上の緑地を設けることなども定められています。



つくばセンターの調整池  
雨水などの調整に利用され、天気の良い昼休みには職員の休憩場所としても親しまれています。

敷地面積および緑地面積

地区	敷地面積	緑地面積※
中央・東・西	1,397,910 m <sup>2</sup>	809,912 m <sup>2</sup>
北	639,826 m <sup>2</sup>	433,725 m <sup>2</sup>
合計	2,037,736 m <sup>2</sup>	1,243,637 m <sup>2</sup>

※ 緊急通路や穴あきブロックおよび砂利地を含みます

近年は研究が広範に及ぶことなどの理由により年々建物が増加しており、前記の運用を維持することが困難な状況になりつつあります。しかし、良好な研究環境の保持および周囲の自然環境との調和を図るために、今後の植栽計画は森林インストラクターによるアドバイスを参考に景観の統一性をもたせるなど、現在の環境を継続しつつ自然保護、緑地保存に配慮していきます。

## 樹木の種類

### つくば中央・つくば東・つくば西

42,319本の樹木が植えられており、その種類はアカマツ、マツ、シラカシ、コナラ、ネズミモチ他98種です。

### つくば北

36,180本の樹木が植えられており、その種類はシラカシ、ヒサカキ、ネズミモチ、クロマツ、コナラ他49種です。



クリ



ゴズイ



カキ



イチョウ



ニュートンのリンゴ※

つくばセンター内の木々

建設計画標準：  
正式には「筑波研究学園都市一団地の官公庁施設建設計画標準」といいます。筑波研究学園都市計画ならびに筑波研究学園都市建設計画の大綱に示された方針のもと、官公庁施設の建築全般の標準を定めたもので、均衡のとれた優れた試験研究環境の整備を目的としたものです。

ニュートンのリンゴ：  
物理学者ニュートンが万有引力を発見するきっかけとなったリンゴの木の子孫です。英国の国立物理学研究所から苗木を譲り受け防疫処理に（独）農業・生物系特定産業技術研究機構果樹研究所（旧農水省果樹試験場）の協力を得て植樹をしたものです。